国際ビューティ学科

メイクアーティストコース

エステティシャンコース

ネイルアーティストコース

ブライダルスタイリストコース

インナービューティコース

科目名	皮膚科学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	萩原　望	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	人類すべて恒常性(ホメオスタシス)の影響によって、バランスを保っている。健康を維持し、 生活バランスを保つために、環境衛生は大切な私たちの一部になっている。衛生の重要性、 健康を保つ為のバランスなどの知識を習得していく。 接客の際、感染・黴菌・病原体経路を学び、しっかりとした衛生管理に基づき、接客・指導できる人材になること。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	「皮膚科学」の必要な知識を身に付け、カウンセリング時に専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	理容・美容保健		
成績評価の方法・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	皮膚の構造	皮膚の表面・断面
第3回目 ～ 第4回目	皮膚の構造	表皮の構造、働き
第5回目 ～ 第6回目	皮膚の構造	真皮・皮下組織の構造、働き
第7回目 ～ 第8回目	皮膚付属器官の構造	毛の構造・毛の成長
第9回目 ～ 第10回目	皮膚付属器官の構造	汗腺・爪
第11回目 ～ 第12回目	皮膚の循環系と神経系	皮膚の血管・リンパ管
第13回目 ～ 第14回目	皮膚の循環系と神経系	皮膚の神経
第15回目 ～ 第16回目	皮膚と付属器官の生理機能	体外保護作用(機械的外力、光線、化学的刺激、細菌)
第17回目 ～ 第18回目	皮膚と付属器官の生理機能	体温調節作用(周囲の温度が高い・低い場合)
第19回目 ～ 第20回目	皮膚と付属器官の生理機能	知覚作用と皮膚反射・分泌排泄作用
第21回目 ～ 第22回目	皮膚と付属器官の生理機能	呼吸作用・吸収作用
第23回目 ～ 第24回目	皮膚と付属器官の生理機能	ビタミンD形成作用・表情作用・再生作用
第25回目 ～ 第26回目	皮膚と付属器官の保健	皮膚と精神、嗜好品、体内病変
第27回目 ～ 第28回目	皮膚と付属器官の保健	皮膚の水分と脂の状態
第29回目 ～ 第30回目	皮膚と付属器官の疾患	皮膚疾患(尋常性座瘡)

科目名	人体化学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	萩原　望	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	人類すべて恒常性(ホメオスタシス)の影響によって、バランスを保っている。健康を維持し、 生活バランスを保つために、環境衛生は大切な私たちの一部になっている。衛生の重要性、 健康を保つ為のバランスなどの知識を習得していく。 接客の際、感染・黴菌・病原体経路を学び、しっかりとした衛生管理に基づき、接客・指導できる人材になること。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	「生理学」「解剖学」の必要な知識を身に付け、カウンセリング時に専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	理容・美容保健		
成績評価の方法・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	美容保健	人体各部の名称　頭部・顔部・頸部の体表解剖学
第3回目 ～ 第4回目	骨格器系①	骨の種類と構造　骨の連結
第5回目 ～ 第6回目	骨格器系②	骨格器系とそのはたらき　骨の保健
第7回目 ～ 第8回目	筋系①	筋の種類とその特徴　主な骨格筋とそのはたらき
第9回目 ～ 第10回目	筋系②	顔面筋と表情運動　筋系の保健
第11回目 ～ 第12回目	神経系①	神経系の成り立ち　中枢神経とそのはたらき
第13回目 ～ 第14回目	神経系②	末梢神経とそのはたらき　神経系の保健
第15回目 ～ 第16回目	感覚器系①	視覚　聴覚　平衡感覚
第17回目 ～ 第18回目	感覚器系②	味覚　嗅覚　皮膚感覚　深部感覚と内臓感覚
第19回目 ～ 第20回目	血液・循環器系①	血液循環の仕組み　循環経路　心臓と血管のはたらき
第21回目 ～ 第22回目	血液・循環器系②	リンパ管系の仕組みとはたらき　循環器系の保健
第23回目 ～ 第24回目	呼吸器系①	呼吸器系のあらまし　気道　肺の仕組みとガス交換
第25回目 ～ 第26回目	呼吸器系②	呼吸運動　呼吸器系の保健
第27回目 ～ 第28回目	消化器系①	消化器系のあらまし　消化管の仕組み　消化管のはたらき
第29回目 ～ 第30回目	消化器系②	消化腺とそのはたらき　消化と物質代謝　消化器系の保健

科目名	栄養学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2前
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	栄養学は、合理的に食物から適正な栄養素を適正量取るという実践的な学問である。 接客の際、日々の食生活から、美肌やボディラインづくりに影響を及ぼすというアドバイスが出来るような知識を身につけていく。 様々な食生活アドバイスの出来る、カウンセラーやエステティシャン、美容アドバイザーとして即実践に役立つ知識を身に付ける。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	「栄養学」の必要な知識を身に付け、カウンセリング時に専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	TBM　オリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第3回目	栄養に関する知識 栄養の基本	栄養とは何か　世界の食料事情 栄養素の種類と働き
第4回目 ～ 第6回目	栄養とエネルギー代謝	消化器系の働き
第7回目 ～ 第9回目	糖質	糖質の特色・種類
第10回目 ～ 第12回目	脂質	脂質の特色・種類・種類
第13回目 ～ 第15回目	タンパク質	タンパク質の特色
第16回目 ～ 第18回目	ビタミン	ビタミンの特色と種類
第19回目 ～ 第21回目	ミネラル	ミネラルの特色と種類
第22回目 ～ 第24回目	食物繊維	食物繊維の特色と種類
第25回目 ～ 第27回目	ファイトケミカル	ファイトケミカルの特色・種類
第28回目 ～ 第30回目	水 酵素	水の特色と種類・働き 酵素の特色と種類
第31回目 ～ 第33回目	加工食品と加工方法 貯蔵	食品加工の目的と食品に合わせた加工方法 微生物を使用した加工方法と種類・食品の貯蔵方法
第34回目 ～ 第36回目	食品添加物 食品の期限表示	食品添加物の必要性と種類 食品衛生法と期限表示規則
第37回目 ～ 第39回目	食中毒	微生物の育成条件 食中毒の種類と特徴
第40回目 ～ 第42回目	食品の期限表示 妊娠期における栄養	食品衛生法と期限表示規則 妊娠期の栄養と食事
第43回目 ～ 第45回目	授乳期・離乳期における栄養 幼児期・成人期における栄養	授乳期・離乳期の栄養と食事 幼児期・成人期の栄養と食事

科目名	社会常識マナー	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	関　孝子	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	社会人として必要な基本的マナーを習得するためにサロンでの見だしなみ・言葉遣い・談電話対応の仕方・接客・カウンセリングなど、実務に即した内容を、実際にロールプレイングして教科書を基に学ぶ。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	サービス接遇検定3級・2級、社会人常識マナー検定2級・3級、経済記事読み方検定		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	サービス接遇検定テキスト、社会人常識検定テキスト		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件
第2回目	専門知識	サービス知識、従業知識
第3回目	一般知識	社会常識
第4回目	対人技能	人間関係、接遇知識、話し方、服装
第5回目	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理、社交業務
第6回目	社会常識①	社会と知識
第7回目	社会常識②	仕事と成果
第8回目	社会常識③	一般知識、ビジネス計算
第9回目	コミュニケーション①	ビジネスコミュニケーション
第10回目	コミュニケーション②	社会人にふさわしい言葉遣い
第11回目	コミュニケーション③	ビジネス文書の活用
第12回目	ビジネスマナー①	職場のマナー
第13回目	ビジネスマナー②	来客応対
第14回目	ビジネスマナー③	電話応対
第15回目	ビジネスマナー④	交際業務、文書類の受け取り

科目名	カウンセリング	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	関　孝子	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	接客業務において、カウンセリングの知識が技術以上に重要視されています。 お客様の心を理解し、また信頼関係に基づいた「人間関係」を築けるようなカウンセラーを目指す。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	美容カウンセリングの必要な知識を身に付け、専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	カウンセリングのあり方	カウンセリングとは、カウンセリングの方法
第3回目 ～ 第4回目	カウンセリングの定義	美容とカウンセリング
第5回目 ～ 第6回目	カウンセリングの種類	美容カウンセリング、心理カウンセリング
第7回目 ～ 第8回目	カウンセリングのレベル	カウンセリングのプロセス
第9回目 ～ 第10回目	カウンセリングの技法	かかわり行動
第11回目 ～ 第12回目	カウンセリングの技法	質問技法・応答技法
第13回目 ～ 第14回目	カウンセリングの技法	ロールプレイング
第15回目 ～ 第16回目	カウンセリングの理論	自己理論
第17回目 ～ 第18回目	カウンセリングの理論	交流分析
第19回目 ～ 第20回目	カウンセリングの理論	構造分析
第21回目 ～ 第22回目	カウンセリングの理論	やりとり分析
第23回目 ～ 第24回目	自己理解と対人関係	エゴグラム
第25回目 ～ 第26回目	自己理解と対人関係	自己評価
第27回目 ～ 第28回目	心の健康	ストレスとストレッサー
第29回目 ～ 第30回目	心の健康	マズローの欲求、私達の生活とカウンセリング

科目名	美容マネジメント	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	川端　康浩	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	美容マネジメントは、サロンの営業活動を記録、計算、整理する技術であり、サロンの経営成績、財政状態を明らかに報告するものである。講義内容は、サロンを前提としたお金の流れを基に仕訳、勘定記入を通じて一巡の流れを学習する。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	日本実務能力検定協会　美容会計検定試験		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	美容会計検定試験用テキスト		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	美容会計の基本	美容会計の目的
第2回目	貸借対照表の役割	損益計算書の役割
第3回目	簿記一巡の流れⅠ①	仕訳の基礎
第4回目	簿記一巡の流れⅠ②	転記・計算表・総勘定元帳
第5回目	簿記一巡の流れⅡ①	試算表の作成
第6回目	簿記一巡の流れⅡ②	決算の手続き・精算表の作成
第7回目	現金・預金の処理	分記法
第8回目	その他の債権債務	債権債務
第9回目	固定資産	固定資産と減価償却
第10回目	収益と費用	収益と費用
第11回目	資本	個人企業の資本
第12回目	決算	決算整理とは
第13回目	会計	伝票会計
第14回目	特徴	サロン経営上の特徴
第15回目	検定対策	検定試験の合格へ向けた問題演習

科目名	英会話	学科名	国際ビューティ学科
分類	必須	配当年次・学期	1前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	アリス・ラモーナ	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	英会話は情報の伝達手段として、インターネットでも幅広く使われ、多くの場面で国際的なコミュニケーションが必要になってきます。美容業に携わる人の活躍する場所も日本ばかりではなく海外へとステージが広がり、幅広く対応できる外国語が必要になっています。日常会話から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得します。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	お客様と日常会話から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得が目標。		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	English for Aesthetic Salons (japan language system)		
成績評価の方法・基準	① 日常の受講態度 ② レポート提出		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Welcome to Our Beauty Salon	サロンあいさつ・曜日・時計・予約の仕方
第2回目	Client Consultation	再来さま用カウンセリング
第3回目	Menu Introduction	メニューの勧め方
第4回目	Reciving Colls a Salon	サロンの電話受付
第5回目	Shampooing	シャンプーした時の会話のやりとり
第6回目	Getting a Haircut	ヘアカット　会話・カットの種類
第7回目	Color My Hair	ヘアカラー　会話・色選び
第8回目	Perming	パーマ　種類・会話
第9回目	Treatment	ヘアケアアドバイス
第10回目	Finishing Your Hair Style	仕上げ・会話・ヘアスタイリング剤
第11回目	Payment Numbers	お支払・数字
第12回目	Giving Directions	道のご案内
第13回目	How to e-mail	Eメールの書き方
第14回目	Job Interview	面接　ポイントアドバイス
第15回目	Review	復習・期末テストの準備

科目名	化粧品学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	関　孝子	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	皮膚の構造・肌のしくみを知ることで、あらゆる肌悩みに対し、最適な化粧品を選び出せるプロフェッショナルな人材を育成する。化粧品の成分を読み解き、特徴を理解することで化粧品のすばらしさをより一層、実感できるようにする。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	日本化粧品検定3級・2級・1級		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	日本化粧品検定対策テキスト		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	まちがえがちな美容知識	クレンジング・洗顔の基本、基礎化粧品の知識
第3回目 ～ 第4回目	皮膚・肌について知ろう	皮膚の成り立ちを断面図で確認・皮膚のしくみと構造
第5回目 ～ 第6回目	皮膚・肌について知ろう	表皮の構造と働き、名称
第7回目 ～ 第8回目	皮膚・肌について知ろう	真皮・皮下組織の構造と働き、名称
第9回目 ～ 第10回目	皮膚・肌について知ろう	皮膚の付属器官の働き・皮膚の機能
第11回目 ～ 第12回目	皮膚・肌について知ろう	皮膚の機能
第13回目 ～ 第14回目	肌の手入れと正しい知識	肌タイプと見分け方・敏感肌
第15回目 ～ 第16回目	肌の手入れと正しい知識	肌悩みの原因とお手入れ（乾燥・尋常性ざ瘡）
第17回目 ～ 第18回目	肌の手入れと正しい知識	肌悩みの原因とお手入れ（尋常性ざ瘡）
第19回目 ～ 第20回目	肌の手入れと正しい知識	肌悩みの原因とお手入れ（毛穴・シミ）
第21回目 ～ 第22回目	肌の手入れと正しい知識	肌悩みの原因とお手入れ（シミ・くすみ・くま）
第23回目 ～ 第24回目	肌の手入れと正しい知識	肌悩みの原因とお手入れ（しわ・たるみ）
第25回目 ～ 第26回目	肌の手入れと正しい知識	メイクアップの基本テクニック
第27回目 ～ 第28回目	美肌・美ボディ	肌を劣化させるさまざまな要因
第29回目 ～ 第30回目	美肌・美ボディ	紫外線が与える影響・マッサージの必要性と方法・生活習慣

科目名	PC	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	顧客管理、文書作成、金銭管理など、パソコンを使う事が一般的となる現代社会。 Word操作から文章作成。Excelから顧客、金銭管理や資料作成。Power Pointからプレゼンテーション能力を学ぶ。 職場での即戦力として経験値を高める為、最も普及しているMicrosoftを修得することを目的とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	Word・Excelの基本操作ができ、文章作成・顧客管理ができること。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	実教出版株式会社 30時間でマスター Office 2010		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及びUSB提出を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Windows基本動作	起動と終了/USB扱い方法/デスクトップ操作
第2回目	ブラウザ操作	基本動作/Google各種操作・登録
第3回目	Word2010①	基本操作/文字の入力
第4回目	Word2010②	文章の作成と表作成
第5回目	Word2010③	画像を使用した文章
第6回目	Excel2010①	データ入力/ワークシート編集
第7回目	Excel2010②	関数の利用と罫線
第8回目	Excel2010③	条件付き書式
第9回目	Excel2010④	検索と置き換え
第10回目	Excel2010⑤	表計算
第11回目	Power Point2010①	基本操作/プレゼンテーション作成
第12回目	Power Point2010②	アニメーション効果/図形利用
第13回目	Power Point2010③	作成/まとめ
第14回目	ムービーメーカー①	基本操作/各種データの挿入と配列
第15回目	ムービーメーカー②	アニメーション効果/視覚効果

科目名	メイク	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎　房代	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	メイクアップは自己表現の一つであるが、周囲の人に好印象を持ってもらうための身だしなみやマナーの一環でもある。 メイクの基礎から応用までを学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。 メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。 確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ JMA日本メイクアップ技術検定　1～3級 INFA國際メイキャップ試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウィッグ・セルフメイク・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第8回目	メイクアップ概論 スキンケアの手順	道具の種類と使い方　セッティングの仕方 添え手と声掛け　フィンガーワーク、ポイントクレンジング
第9回目 ～ 第16回目	スキンケアの手順 ベースメイクの手順	クレンジング　化粧水　乳液 ベースメイクの手順　質感　フェイスブロッキング
第17回目 ～ 第24回目	ベースメイクの手順 チーク・ハイライト・ローライト	ベース・コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー フェイスパウダー・チーク・ハイライト・ローライト
第25回目 ～ 第32回目	顔の形態的な観察 修正メイク	顔型の分析　皮膚の生理学・構造　メイクアップと色彩 顔型の修正　メイクアップの基礎テクニック
第33回目 ～ 第40回目	ポイントメイク ポイントメイク	アイシャドウ　アイブロウ アイライン　マスカラ　リップ
第41回目 ～ 第48回目	フルメイク 修正メイクテクニック	JMA3級・2級技術の仕上げ 眉の修正　目の修正　唇の修正
第49回目 ～ 第56回目	シーン別メイク パーティメイク	ナチュラルメイク　就活メイク パーティメイク　成人式メイク
第57回目 ～ 第64回目	パーソナルメイク メイクアップの応用・強弱	線と形の錯覚　　個性の分析　プロポーション　バランス メイクアップの強弱と印象
第65回目 ～ 第72回目	アイメイクのバリエーション リップ・チークのバリエーション	グラデーション(縦・横・立体) ストレート　アウトカーブ　インカーブ
第73回目 ～ 第80回目	イメージメイク キュートメイク	イメージメイク理論とテクニック イメージのポイントを理解し、方向性を決める
第81回目 ～ 第88回目	クールメイク エレガントメイク	イメージのポイントを理解し、方向性を決める イメージのポイントを理解し、方向性を決める
第89回目 ～ 第96回目	フレッシュメイク メイクカウンセリング	イメージのポイントを理解し、方向性を決める メイクプランニング　アドバイス
第97回目 ～ 第104回目	ブライダルメイク(洋装) ブライダルメイク(和装)	挙式タイプ　お色直し　ヘアメイクチェンジ 和婚タイプ　新和装タイプ
第105回目 ～ 第112回目	フォトメイク 年代別メイク	フォトメイクのテクニック　カラーの発色や質感 時代背景　メイク変遷
第113回目 ～ 第120回目	ディプロマ試験対策① ディプロマ試験対策②	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習① 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習②

科目名	エステ	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	関　孝子	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	気配りを持って人の心に満足感や快感を与えることで、体のバランスを整え内面からと外見の美しさを表現する。この科目は、基礎用語、正しい知識と理論の習得と実習を組み合わせ、的確なカウンセリングと接客マナー及び技術を学ぶ。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	TBMディプロマ INFA國際エステ試験、認定フェイシャル・ボディエステティシャン		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	美容技術理論2 TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並びに技術の習得は、エステウィッグ・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第8回目	エステ概論・クレンジング	化粧品の種類と使い方　セッティングの仕方・クレンジング
第9回目 ～ 第16回目	コースの手順	ポイントメイク落とし・クレンジング・スポンジの使い方
第17回目 ～ 第24回目	コースの手順・デコルテ	ポイントメイク落とし・クレンジング・デコルテマッサージ
第25回目 ～ 第32回目	デコルテマッサージ	ポイントメイク落とし・クレンジング・デコルテマッサージ
第33回目 ～ 第40回目	洗顔・ハンドマッサージ	ポイントメイク落とし～洗顔・デコルテ,ハンドマッサージ
第41回目 ～ 第48回目	フェイス・フットマッサージ	ポイントメイク落とし～洗顔・デコルテ,フットマッサージ
第49回目 ～ 第56回目	フェイシャルコース（パック）	ポイントメイク落とし～デコルテ,フェイシャルマッサージ・パック
第57回目 ～ 第60回目	フェイシャルコース	ポイントメイク落とし～マッサージ・パック・ハンドマッサージ
第61回目 ～ 第68回目	デコルテマッサージ	ポイントメイク落とし～応用デコルテマッサージ
第69回目 ～ 第80回目	機器の使用	イオン導入・高周波・低周波の使用方法・効果
第81回目 ～ 第88回目	フェイシャル・デコルテ	ポイントメイク落とし～応用デコルテ,フェイスマッサージ
第89回目 ～ 第96回目	フェイシャル・デコルテ	ポイントメイク落とし～応用デコルテ,フェイスマッサージ・パック
第97回目 ～ 第104回目	カウンセリング+コース	肌の悩みに応じたフェイシャルコース
第105回目 ～ 第112回目	部分トリートメント	背中・フット・ハンドマッサージ+フェイシャルコース
第113回目 ～ 第120回目	ディプロマ試験対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	ネイル	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	近藤　歩/井出　由香里	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	ネイルアーティストとして必要な知識・技術を基礎から学び、ベーシックなサロンワークに対応出来る技術を習得する。 ネイルに関する知識・技術を段階的に学び、ケアカラーからアクリルネイルの基本技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ INFA國際ネイル試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法・基準	技術、作品提出を総合的に判断し評価する。 試験の成績はもとより、出席状況、授業姿勢、美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、ネイル講義並びに技術の習得は、ネイルチップ・セルフネイル・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第8回目	ネイル技術理論 ケアカラー	爪の基礎知識・爪の構造 ネイルケア・カラーリング
第9回目 ～ 第16回目	ポリッシュアート 作品作り	グラデーション ポリッシュを使用したデザインネイル作成
第17回目 ～ 第24回目	ジェルネイルの基礎 ワンカラー	ジェルネイル基礎知識と扱い方法 クリア・ワンカラー
第25回目 ～ 第32回目	グラデーション ジェルアート①	ジェルグラデーション ジェルフレンチ
第33回目 ～ 第40回目	ジェルアート② 作品作り	マーブル ジェルを使用したデザインネイル作成
第41回目 ～ 第48回目	アクリルネイルの基礎 エンボスアート①	アクリルネイル基礎知識と扱い方法 エンボスネイル基礎知識
第49回目 ～ 第56回目	エンボスアート② 作品作り	エンボスネイル デザインネイル作成
第57回目 ～ 第64回目	作品作り カウンセリング	デザインネイル作成 施術を避けるべき症状,行ってはいけない症状
第65回目 ～ 第72回目	アクリルスカルプチュア基礎 アクリルスカルプ①	フォームの付け方/エッジ クリア(ポイント・スクエア)
第73回目 ～ 第80回目	アクリルスカルプ② アクリルスカルプ③	グラデーション フレンチ
第81回目 ～ 第88回目	アクリルスカルプ④ アクリルスカルプ⑤	バーチャルフレンチ ロングスカルプ、時短スカルプ
第89回目 ～ 第96回目	3Dアート デザインスカルプ①	エンボス・立体 エンボス(埋め込み)
第97回目 ～ 第104回目	デザインスカルプ② ジェルスカルプ①	マーブル、クラッシュガラス、ウェービング 長さだし(ポイント・オーバル)
第105回目 ～ 第112回目	ジェルスカルプ② エアブラシアート①	長さだし(ラウンド・スクエア) エアブラシ理論、道具説明
第113回目 ～ 第120回目	エアブラシアート② 作品制作	作品制作 デザインスカルプチュア

科目名	ヘアー	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬/松林　栄子	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	実践的なヘアーセットを行う為、様々な髪を把握し、基本となるテクニックを学習する。 また、想像力を養い、感性を育成する。 ブライダル、ファッション界、舞台、一般分野に至るまで活躍できる人材を育成する。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	TBMディプロマ		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	TBMオリジナルプリント		
成績評価の方法・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、技術の習得は、モデルウィッグでの練習または相モデルでの施術を行う。 練習を重ね、積極的に技術を習得していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第4回目	概要 一束	用具説明/使用方法 ブロッキング/ブラッシング/結び方
第5回目 ～ 第8回目	編み込み ヘアスタイル作成①	表編み込み/裏編み込み/各種編み込み 編み込みを使用したヘアスタイル①
第9回目 ～ 第12回目	夜会巻き	夜会巻き作成手順説明 夜会巻き作成
第13回目 ～ 第16回目	各種アイロン ホットカーラー	ストレートアイロン/カールアイロン ホットカーラー
第17回目 ～ 第20回目	日本髪	日本髪作成手順説明 日本髪作成
第21回目 ～ 第24回目	ヘアスタイル作成②・③	編み込みを使用したヘアスタイル②・③
第25回目 ～ 第28回目	ヘアスタイル作成④・⑤	逆毛を主とするヘアスタイル①・②
第29回目 ～ 第32回目	復習	復習を兼ねた作品作り
第33回目 ～ 第36回目	作品作り①	イメージに合わせたヘアスタイル作成（キュート・クール）
第37回目 ～ 第40回目	作品作り②	イメージに合わせたヘアスタイル作成（フレッシュ・エレガント）
第41回目 ～ 第44回目	作品作り③	ディプロマ試験対策用ヘアスタイル作成
第45回目 ～ 第48回目	相モデル実習①・②	ブライダルヘアスタイル作成①
第49回目 ～ 第52回目	相モデル実習③・④	ブライダルヘアスタイル作成②
第53回目 ～ 第56回目	ディプロマ試験対策①	各ペアでディプロマ試験のテーマに合わせた技術練習①
第57回目 ～ 第60回目	ディプロマ試験対策②	各ペアでディプロマ試験のテーマに合わせた技術練習②

科目名	ブライダル	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎　房代	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	ブライダルプロデュースに関わる役割や結婚式を創り上げるための様々な分野を学習することにより、ブライダルシーンを創造する能力を身に付ける。 授業は、用語解説、検定対策問題を解きながら同時に、ブライダルコーディネーターの基礎的な事柄を習得する。 ブライダルへの興味を深くし、業界のニーズに応えられるプロを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興会ブライダルコーディネート技能検定3級 AWP アシスタント・ウェディングプランナー検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興会ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) AWPアシスタント・ウェディングプランナーテキスト		
成績評価の方法・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、テーマによってはグループ学習やロールプレイ等を取り入れていくので、主体的に学習し、また資格取得に向けて努力していって欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	結婚とは	結婚の定義 日本の結婚式(歴史と文化)　欧米の結婚式(歴史と文化)
第3回目 ～ 第4回目	ブライダルビジネス	ブライダル市場　ブライダル業種　ブライダルの関連業種 ブライダルのエリア特性　ブライダル業界の1年と集客システム
第5回目 ～ 第6回目	ブライダルの基礎①	見合いと婚約　結納・婚約式　ブライダル準備 キリスト教式　神前式
第7回目 ～ 第8回目	ブライダルの基礎②	仏前式　人前式　シビル・マリッジ 披露宴　海外ウェディングと新婚旅行　二次会
第9回目 ～ 第10回目	コーディネーター業務①	新規業務　ブライダルセールスの特徴　ホスピタリティ営業 プランニング
第11回目 ～ 第12回目	コーディネーター業務②	プレゼンテーションの手法　新規アフターフォロー 成約業務　ペーパーワーク
第13回目 ～ 第14回目	打合せ業務	成約時から初回打合わせまで 最終打合わせ～当日まで
第15回目 ～ 第16回目	衣裳選定	花嫁のドレス　洋装と小物 花嫁の和装　和装小物
第17回目 ～ 第18回目	ブーケ フラワーアイテム	ブーケの由来と歴史　ブーケの代表的なデザイン フラワーアイテム　会場装花　両親への花束
第19回目 ～ 第20回目	ブライズビューティ	ヘアスタイル　メイクイメージ ネイルアート　ブライダルエステ
第21回目 ～ 第22回目	コーディネート	会場コーディネート　テーブルコーディネート ペーパーアイテム　ウェルカムアイテム
第23回目 ～ 第24回目	料理・飲物	フランス料理　日本料理　折衷料理　イタリア料理　中華料理 ドリンク　ウェディングケーキ
第25回目 ～ 第26回目	披露宴の演出	司会　音楽　照明　映像　演出プラン 引出物　引菓子　記録・記念アイテム
第27回目 ～ 第28回目	手配業務	ペーパーアイテム手配　ビューティ手配 挙式・披露宴演出手配
第29回目 ～ 第30回目	当日業務	当日のコーディネーターの役割　挙式・披露宴進行表 テーブルセッティング　当日のサービス業務

科目名	ヨガ	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡本 聡子	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	心と身体のバランスを整えるヨガの知識を身につける。 身体の不調や疾患を学び、機能改善へのアプローチおよび指導法を実践を通じて習得する。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	日本統合医学協会認定ヨガインストラクター資格		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	日本統合医学協会発行テキスト		
成績評価の方法・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが主体的に学習し、また資格取得に向けて努力して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ヨガ概論	ヨガについての基本知識を学習
第3回目 ～ 第4回目	プログラミング	ヨガのアーサナの基本的な組み合わせを実践
第5回目 ～ 第6回目	呼吸法・呼吸器	ヨガの呼吸法、呼吸器系に対する機能改善へのアプローチを習得する
第7回目 ～ 第8回目	脊柱・腰部	脊柱の構造、腰部にアプローチするポーズを習得する
第9回目 ～ 第10回目	骨盤・股関節	骨盤・股関節の構造や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第11回目 ～ 第12回目	肩部・上肢	肩部・上肢の構造や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第13回目 ～ 第14回目	頸部・背部	頸部・背部の構造や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第15回目 ～ 第16回目	神経系	神経の構造や不調・疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第17回目 ～ 第18回目	生殖器	生殖器の構造と働き、不調や疾患を機能改善へのアプローチを習得する
第19回目 ～ 第20回目	消化器・免疫	消化器官の構造や働き、免疫機能などの疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第21回目 ～ 第22回目	循環器・感覚器・内分泌	循環器・感覚器・ホルモンに関わる不調や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第23回目 ～ 第24回目	太陽礼拝	複数のポーズからなる太陽礼拝を習得する
第25回目 ～ 第26回目	体幹	体幹を鍛えるアーサナを習得する
第27回目 ～ 第28回目	試験対策	認定試験に向けた対策授業
第29回目 ～ 第30回目	試験	認定試験の実施

科目名	コース別(メイク)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	メイクアップは自己表現の一つであるが、周囲の人に好印象を持ってもらうための身だしなみやマナーの一環でもある。 メイクの基礎から応用までを学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。 メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。 確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ JMA日本メイクアップ技術検定　1～3級 INFA國際メイキャップ試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウィッグ・セルフメイク・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ブライダルメイク(洋装)	挙式タイプ　ヘアメイクチェンジ
第3回目 ～ 第4回目	ブライダルメイク(洋装)	イメージ別お色直し
第5回目 ～ 第6回目	ブライダルメイク(和装①)	新和装タイプ
第7回目 ～ 第8回目	ブライダルメイク(和装②)	和婚タイプⅠ
第9回目 ～ 第10回目	ブライダルメイク(和装③)	和婚タイプⅡ
第11回目 ～ 第12回目	特殊メイク 舞台メイク①	ハロウィンメイク 劇団四季風メイク
第13回目 ～ 第14回目	舞台メイク②	宝塚風メイク　ディズニープリンセス風メイク
第15回目 ～ 第16回目	フォトメイク	フォトメイクのテクニック　カラーの発色や質感
第17回目 ～ 第18回目	年代別メイク①	時代背景　メイク変遷Ⅰ
第19回目 ～ 第20回目	年代別メイク②	時代背景　メイク変遷Ⅱ
第21回目 ～ 第22回目	デザインメイク①	テーマを決めてフェイスアートⅠ
第23回目 ～ 第24回目	デザインメイク②	テーマを決めてフェイスアートⅡ
第25回目 ～ 第26回目	デザインメイク③	テーマを決めてフェイスアートⅢ
第27回目 ～ 第28回目	ディプロマ対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第29回目 ～ 第30回目	ディプロマ対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	コース別(エステ)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	関　孝子	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	気配りを持って人の心に満足感や快感を与えることで、体のバランスを整え内面からと外見の美しさを表現する。この科目は、基礎用語、正しい知識と理論の習得と実習を組み合わせ、的確なカウンセリングと接客マナー及び技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ INFA國際エステ試験、認定フェイシャル・ボディエステティシャン		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 新エステティック学(技術Ⅰ)		
成績評価の方法・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並びに技術の習得は、エステウィッグ・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	肌別フェイシャル①	ホワイトニングフェイシャル
第3回目 ～ 第4回目	リラクゼーションマッサージ	オイルマッサージ
第5回目 ～ 第6回目	肌別フェイシャル②	エイジングフェイシャル
第7回目 ～ 第8回目	痩身マッサージ	振動法・打法・強擦法・軽擦法・揉捻法
第9回目 ～ 第10回目	肌別フェイシャル③	小顔フェイシャル
第11回目 ～ 第12回目	ブライダルエステ①	トリートメントフェイシャル+ヘッドマッサージ
第13回目 ～ 第14回目	ブライダルエステ②	リンパマッサージ(フット)
第15回目 ～ 第16回目	ブライダルエステ③	リンパマッサージ(背中)
第17回目 ～ 第18回目	ブライダルエステ④	リンパマッサージ(腕、デコルテ)
第19回目 ～ 第20回目	ブライダルエステ⑤	全身リンパマッサージ
第21回目 ～ 第22回目	肌別フェイシャル④	トリートメントフェイシャル+ヘッドマッサージ
第23回目 ～ 第24回目	リラクゼーションマッサージ	全身リンパマッサージ
第25回目 ～ 第26回目	肌別フェイシャル⑤	カウンセリング後トリートメントフェイシャル
第27回目 ～ 第28回目	ディプロマ対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第29回目 ～ 第30回目	ディプロマ対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	コース別(ネイル)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	前澤　琴乃	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	ネイルアーティストとして必要な知識・技術を基礎から学び、ベーシックなサロンワークに対応出来る技術を習得する。 ネイルに関する知識・技術を段階的に学び、ケアカラーからジェルネイルの基本技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ INFA國際ネイル試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法・基準	技術、作品提出を総合的に判断し評価する。 試験の成績はもとより、出席状況、授業姿勢、美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、ネイル講義並びに技術の習得は、ネイルチップ・セルフネイル・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ジェルスカルプ	ケア・カラー
第3回目 ～ 第4回目	ジェルスカルプ	長さだし(ポイント・オーバル)
第5回目 ～ 第6回目	ジェルスカルプ	長さだし(ラウンド・スクエア)
第7回目 ～ 第8回目	アクリルスカルプ	グラデーション
第9回目 ～ 第10回目	アクリルスカルプ	フレンチ
第11回目 ～ 第12回目	デザインスカルプ	エンボス埋め込み
第13回目 ～ 第14回目	デザインスカルプ	マーブル、クラッシュガラス
第15回目 ～ 第16回目	パラフィンパック	パラフィンパック基礎知識・扱い方法
第17回目 ～ 第18回目	エアブラシ	エアブラシアート基礎知識・扱い方法
第19回目 ～ 第20回目	エアブラシ	エアブラシアート作品作り
第21回目 ～ 第22回目	ブライダルネイル	エンボスを取り入れたブライダルネイル
第23回目 ～ 第24回目	ブライダルネイル	3Dを取り入れたブライダルネイル
第25回目 ～ 第26回目	ブライダルネイル	作品作り
第27回目 ～ 第28回目	ブライダルネイル ディプロマ対策	和装作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第29回目 ～ 第30回目	ブライダルネイル ディプロマ対策	洋装作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	コース別(インナービューティ)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡本　聡子	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	リハビリに基づいてつくられたピラティスの知識を身につける。 インナーマッスルを鍛え、メリハリのある身体をつくり、姿勢の改善、怪我の予防にも期待のできるエクササイズを学ぶ。 ピラティスによる機能改善へのアプローチと効果的な指導法を実践を通じて習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本統合医学協会認定ピラティスインストラクター資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本統合医学協会発行テキスト		
成績評価の方法・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが主体的に学習し、また資格取得に向けて努力して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ピラティス概論	ピラティスについての基本知識を学習
第3回目 ～ 第4回目	骨格と姿勢	人体の骨格や筋肉について学習する
第5回目 ～ 第6回目	入門	ピラティスの呼吸法、基本について学ぶ
第7回目 ～ 第8回目	体幹	体幹に関わるエクササイズを習得する
第9回目 ～ 第10回目	体幹	体幹に関わるエクササイズを習得する
第11回目 ～ 第12回目	腰部	腰部に関わるエクササイズを習得する
第13回目 ～ 第14回目	股関節	股関節に関わるエクササイズを習得する
第15回目 ～ 第16回目	頸部・背部	頸部・背部に関わるエクササイズを習得する
第17回目 ～ 第18回目	肩部	肩部に関わるエクササイズを習得する
第19回目 ～ 第20回目	上肢・下肢	上肢・下肢に関わるエクササイズを習得する
第21回目 ～ 第22回目	生殖器・感覚器・呼吸器	生殖器・感覚器・呼吸器の機能改善アプローチを習得する
第23回目 ～ 第24回目	循環器・消化器	循環器・消化器の機能改善アプローチを習得する
第25回目 ～ 第26回目	神経・免疫・内分泌	神経・免疫・内分泌の機能改善アプローチを習得する
第27回目 ～ 第28回目	試験対策	認定試験に向けた対策授業
第29回目 ～ 第30回目	試験	認定試験の実施

科目名	コース別(ブライダル)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬/関　孝子/前澤　琴乃	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	ブライダルプロデュースに関わる役割や結婚式を創り上げるための様々な分野を学習することにより、ブライダルシーンを創造する能力を身に付ける。 授業は、ブライダルエステ・メイク・ネイルをトータルで学び、実践で役立つ技術を幅広く習得する。 ブライダルへの興味を深くし、業界のニーズに応えられるプロを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ JMA日本メイクアップ技術検定　1～3級 INFA國際エステ・メイキャップ・ネイル試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、技術の習得は、ウィッグ・セルフ・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ブライダルメイク(洋装)	挙式タイプ　ヘアメイクチェンジ
第3回目 ～ 第4回目	ブライダルメイク(洋装)	イメージ別お色直し
第5回目 ～ 第6回目	ブライダルメイク(和装①)	新和装タイプ
第7回目 ～ 第8回目	ブライダルメイク(和装②)	和婚タイプⅠ
第9回目 ～ 第10回目	ブライダルメイク(和装③)	和婚タイプⅡ
第11回目 ～ 第12回目	ブライダルエステ①	トリートメントフェイシャル+ヘッドマッサージ
第13回目 ～ 第14回目	ブライダルエステ②	リンパマッサージ(フット)
第15回目 ～ 第16回目	ブライダルエステ③	リンパマッサージ(背中)
第17回目 ～ 第18回目	ブライダルエステ④	リンパマッサージ(腕、デコルテ)
第19回目 ～ 第20回目	ブライダルエステ⑤	全身リンパマッサージ
第21回目 ～ 第22回目	ブライダルネイル	エンボスを取り入れたブライダルネイル
第23回目 ～ 第24回目	ブライダルネイル	3Dを取り入れたブライダルネイル
第25回目 ～ 第26回目	ブライダルネイル	作品作り
第27回目 ～ 第28回目	ブライダルネイル ディプロマ対策	和装作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第29回目 ～ 第30回目	ブライダルネイル ディプロマ対策	洋装作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	サロン実践	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	プロのネイルアーティストとして正しいカウンセリングをし、様々な爪や皮膚に合わせ的確なアドバイスを行える知識や実践的なサロンマナーを学ぶ。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	TBMディプロマ INFA國際ネイル試験		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法・基準	挨拶、授業姿勢、サロン実践での接客や施術、レポート提出を総合的に判断し評価する。 出席状況、授業姿勢、美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、ネイル講義並びに技術の習得は、ネイルチップ・セルフネイル・相モデルでの施術を行う。 お客様を招いての実践授業なので、接客や技術の面で即戦力となれるように取り組んで欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ネイルケア	ケア・カラー
第2回目	ネイルアート	カラーリング・パーツアート
第3回目	ジェルネイル基礎	クリア・1カラー
第4回目	ジェルアート①	グラデーション・フレンチ
第5回目	ジェルアート②	タイダイ・マーブル
第6回目	接客マナー	カウンセリング・接客マナー
第7回目	シミュレーション①	学生をモデルにシミュレーション
第8回目	シミュレーション②	学生をモデルにシミュレーション
第9回目	サロン実践①	お客様の希望に合わせた施術
第10回目	サロン実践②	お客様の希望に合わせた施術
第11回目	サロン実践③	お客様の希望に合わせた施術
第12回目	サロン実践④	お客様の希望に合わせた施術
第13回目	サロン実践⑤	お客様の希望に合わせた施術
第14回目	サロン実践⑥	お客様の希望に合わせた施術
第15回目	サロン実践⑦	お客様の希望に合わせた施術

科目名	職業実践	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1後・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当 ◯
担当教員		実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	最先端の美容技術について、インストラクターの経験をもとに具体的・実践的にわかりやすく教授してもらい、今後の各種勉強と関連性を意識し、サロン就業のモチベーションをアップさせる。実践を重視した授業と、現場を数多く経験した方々の直接指導で、美容業界の現場で即戦力として使える熟練した技術を修得し、活用することにより、各自の技術に自信を持つことを期待する。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	特になし		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	オリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	① 挨拶 ② 選択実習の履修時間 ③ 日常の受講態度 ④ レポート提出		
履修に当たっての留意点	特になし		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ビューティアドバイザーの仕事①	マナー・挨拶　メイク技術Ⅰ
第2回目	エステティシャンの仕事①	マナー・挨拶　フェイシャル技術Ⅰ
第3回目	ネイリストの仕事①	接客　ネイルケア　デザインネイルⅠ
第4回目	ブライダルの仕事①	接客技術　ブライダルヘアⅠ
第5回目	ビューティアドバイザーの仕事②	マナー・挨拶　メイク技術Ⅱ
第6回目	エステティシャンの仕事②	マナー・挨拶　フェイシャル技術Ⅱ
第7回目	ネイリストの仕事②	接客　デザインネイルⅡ
第8回目	ブライダルの仕事②	接客技術　ブライダルヘアⅡ
第9回目	ビューティアドバイザーの仕事③	マナー・挨拶　メイク技術Ⅲ
第10回目	エステティシャンの仕事③	マナー・挨拶　フェイシャル技術Ⅲ
第11回目	ネイリストの仕事③	接客　デザインネイルⅢ
第12回目	ブライダルの仕事③	接客技術　ブライダルヘアⅢ
第13回目	ビューティアドバイザーの仕事④	マナー・挨拶　メイク技術Ⅳ
第14回目	エステティシャンの仕事④	マナー・挨拶　フェイシャル技術Ⅳ
第15回目	ネイリストの仕事④	接客　デザインネイルⅣ

科目名	行事	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数		単位数	
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員		実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	各種イベント・式典・ボランティア参加や研修旅行等を通して見聞を広め、職業人としての自覚とマナー・接客技術等を学び、職場での即戦力としての経験値を高める。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	特になし		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	特になし		
成績評価の方法・基準	出席率		
履修に当たっての留意点	特になし		

授業計画	テーマ	内容
就職決起大会		就職への決意表明
就職講演会①②		社会から求められるものを学ぶ
サロンガイダンス		県内・県外からサロンの方から説明を聞く
オリエンテーション		コミュニケーション能力を高める
国内研修旅行		美容知識を学ぶ
スポーツ大会		カラダを動かし身体能力を高める
就職マナー研修		就職への心構えを学ぶ
性犯罪防止セミナー		性犯罪の怖さを学ぶ
フィールドワーク		美容の知識や最新技術を学ぶ
コンサート		芸術的感性を磨く
成人の祝い		日本の伝統を学ぶ
海外研修		見聞を広め自主性を伸ばす
歩行ラリー		個人と組織の問題解決能力を学ぶ
薬物乱用防止セミナー		薬物の怖さを学ぶ
美容研修		最新の技術と接客マナーを学ぶ

科目名	メイクⅠ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	検定取得を目標とし、メイクの基礎を学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。 メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	JMA日本メイクアップ技術検定　2級・3級		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト		
成績評価の方法・基準	出席状況、授業姿勢を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウィッグ・セルフメイク・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	メイクアップ概論	メイク道具扱いについて/セッティング/添え手と声掛け フィンガーワーク/ポイントクレンジング
第3回目 ～ 第4回目	スキンケア	クレンジング/化粧水/乳液
第5回目 ～ 第6回目	ベースメイク	コントロールカラー/ファンデーション コンシーラー/フェイスパウダー
第7回目 ～ 第8回目	顔型分析と修正	顔型の分析・修正/錯覚を使用したメイク チーク/ハイライト/ローライト
第9回目 ～ 第10回目	検定対策①	JMA日本メイクアップ検定試験 3級 対策①
第11回目 ～ 第12回目	検定対策②	JMA日本メイクアップ検定試験 3級 対策②
第13回目 ～ 第14回目	質感調整	使用道具、メイク方法において変化する メイクの質感調整
第15回目 ～ 第16回目	ポイントメイク①	アイシャドウ/アイブロウ/アイライン
第17回目 ～ 第18回目	ポイントメイク②	ビューラー/マスカラ/リップ
第19回目 ～ 第20回目	ポイントメイクテクニック	イメージ別メイクテクニック 錯覚を利用したメイクテクニック
第21回目 ～ 第22回目	検定対策③	JMA日本メイクアップ検定試験 2級 対策①
第23回目 ～ 第24回目	検定対策④	JMA日本メイクアップ検定試験 2級 対策②
第25回目 ～ 第26回目	セルフメイク	自身の顔型分析/なりたいイメージ別メイク
第27回目 ～ 第28回目	作品作り	テーマ別メイクアップ
第29回目 ～ 第30回目	フォトメイク	カラーの発色や濃さ/質感/ライティングによるメイク

科目名	メイクⅡ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木　彬	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	検定取得を目標とし、メイクの基礎を学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。 メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	JMA日本メイクアップ技術検定　1級		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト		
成績評価の方法・基準	出席状況、授業姿勢を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウィッグ・セルフメイク・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	メイクアップ概論	イメージメイク理論/メイク強弱/顔型分析
第3回目 ～ 第4回目	カウンセリング	カウンセリングシート記入/メイクプランニング
第5回目 ～ 第6回目	メイク強弱①	アイメイクを強調させたメイクテクニック
第7回目 ～ 第8回目	メイク強弱②	チークを強調させたメイクテクニック
第9回目 ～ 第10回目	メイク強弱③	リップメイクを強調させたメイクテクニック
第11回目 ～ 第12回目	立体メイク	顔型分析を行い立体的にメイクを行う
第13回目 ～ 第14回目	イメージメイク①	キュートイメージメイク
第15回目 ～ 第16回目	イメージメイク②	クールイメージメイク
第17回目 ～ 第18回目	イメージメイク③	フレッシュイメージメイク
第19回目 ～ 第20回目	イメージメイク④	エレガントイメージメイク
第21回目 ～ 第22回目	検定対策	JMA日本メイクアップ検定試験 1級 対策①
第23回目 ～ 第24回目	検定対策②	JMA日本メイクアップ検定試験 1級 対策②
第25回目 ～ 第26回目	デザインメイク	デザインメイク/特殊メイク
第27回目 ～ 第28回目	作品作り①	テーマ別メイクアップ①
第29回目 ～ 第30回目	作品作り②	テーマ別メイクアップ②

科目名	エステⅠ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	萩原　望	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	エステティックの本質は、人間の心にある「美しくありたい」「若々しくありたい」という欲求や願望を実現して、満足感と幸福をもたらすことです。正しい知識と理論の習得と施術を組み合わせ総合的な「おもてなし」を学ぶ		
到達目標（目標検定・資格を含む）	認定フェイシャル・ボディエステティシャン		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	出席状況、挨拶、技術を参考に総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並び技術の習得は、ウィッグ・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	エステティックとは	エステティシャンの心得、肌の構造・しくみ・化粧品について・準備
第3回目 ～ 第4回目	施術の前に	化粧品について、機器について、準備
第5回目 ～ 第6回目	フェイシャル（基礎）	ターバンの巻き方、ポイントメイク落とし、クレンジング
第7回目 ～ 第8回目	フェイシャル（基礎）	ポイントメイク落とし、クレンジング
第9回目 ～ 第10回目	フェイシャル（基礎）	ポイントメイク落とし、クレンジング、デコルテマッサージ（基礎）
第11回目 ～ 第12回目	フェイシャル（基礎）	ポイントメイク落とし～デコルテマッサージ
第13回目 ～ 第14回目	フェイシャル（基礎）	洗顔+フェイスマッサージ（基礎）
第15回目 ～ 第16回目	フェイシャル（基礎）	ポイントメイク落とし～フェイスマッサージ（基礎）
第17回目 ～ 第18回目	フェイシャル（基礎）	パックを含むフェイスコース
第19回目 ～ 第20回目	ハンドマッサージ	フェイシャル基礎+ハンドマッサージ
第21回目 ～ 第22回目	フットマッサージ	フェイシャル基礎+フットマッサージ
第23回目 ～ 第24回目	部分トリートメント	ハンド+フット
第25回目 ～ 第26回目	機器	高周波、イオン導入、超音波
第27回目 ～ 第28回目	部分トリートメント	背中トリートメント
第29回目 ～ 第30回目	フェイシャルコース（基礎）まとめ	ポイントメイク～フェイスマッサージ（基礎）・パック

科目名	エステⅡ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	萩原　望	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	エステティックの本質は、人間の心にある「美しくありたい」「若々しくありたい」という欲求や願望を実現して、満足感と幸福をもたらすことです。 正しい知識と理論の習得と施術を組み合わせ総合的な「おもてなし」を学ぶ。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	認定フェイシャル・ボディエステティシャン		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	出席状況、挨拶、技術を参考に総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並び技術の習得は、ウィッグ・相モデルでの施術を行う。 練習を重ね、肌質に合った技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	肌別エステ	カウンセリングの仕方
第3回目 ～ 第4回目	デコルテ①	デコルテマッサージ（応用）
第5回目 ～ 第6回目	デコルテ②	クレンジング、洗顔、デコルテマッサージ（応用）
第7回目 ～ 第8回目	フェイシャル①	クレンジング、洗顔、フェイスマッサージ（応用）
第9回目 ～ 第10回目	フェイシャル②	クレンジング、洗顔、デコルテ・フェイスマッサージ（応用）
第11回目 ～ 第12回目	ボディ①	前操作、リンパマッサージ（フット）
第13回目 ～ 第14回目	ボディ②	リンパマッサージ（背中）
第15回目 ～ 第16回目	ボディ③	リンパマッサージ（お腹・デコルテ）
第17回目 ～ 第18回目	ボディ④	リンパマッサージ（腕）
第19回目 ～ 第20回目	フェイシャル①	クレンジング～マッサージ（応用）、パック
第21回目 ～ 第22回目	フェイシャル②	肌別コース（フェイシャル）
第23回目 ～ 第24回目	機器	応用（イオン導入・高周波・超音波）
第25回目 ～ 第26回目	フェイシャルコース	カウンセリング～フェイシャルコース
第27回目 ～ 第28回目	ボディコース	リンパマッサージ（フット・背中・お腹・腕・デコルテ）
第29回目 ～ 第30回目	フェイシャル・ボディコースまとめ	カウンセリング～仕上げまで

科目名	ネイル Ⅰ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	井出　由香里	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	ネイルアーティストとして必要な知識・技術を基礎から学び、ジェルネイルを中心にベーシックなサロンワークに対応できる技術を習得する。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	TBMディプロマ INFA國際ネイル試験		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法・基準	課題提出等を、総合的に判断し評価する。 出席状況、授業姿勢、尚技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ネイル技術理論	ネイル技術概論・ネイル技術の種類 爪のカット形状・ファイリング・シャイニング
第3回目 ～ 第4回目	爪の基礎知識	爪の構造と機能・テーブルセッティング
第5回目 ～ 第6回目	ネイルケア	甘皮ケア
第7回目 ～ 第8回目	ケアカラー	甘皮ケア・カラーリング
第9回目 ～ 第10回目	ネイルアート	カラーリング・フラットアート
第11回目 ～ 第12回目	ジェルネイルの基礎	ジェルネイルとは・クリアフローター
第13回目 ～ 第14回目	ジェルネイル①	1カラー
第15回目 ～ 第16回目	ジェルネイル②	グラデーション
第17回目 ～ 第18回目	ジェルネイル③	フレンチ
第19回目 ～ 第20回目	ジェルアート①	ペイント・ピーコック
第21回目 ～ 第22回目	ジェルアート②	マーブル
第23回目 ～ 第24回目	ジェルアート③	タイダイ
第25回目 ～ 第26回目	ジェルスカルプ①	長さだし（ポイント・オーバル）
第27回目 ～ 第28回目	ジェルスカルプ②	長さだし（ラウンド・スクエア）
第29回目 ～ 第30回目	作品作り	デザインチップ

科目名	ネイルⅡ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	井出　由香里	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	プロのネイリストとして必要な特殊な技術を学び、アクリルスカルプチュアを中心に感性・想像力を養いオリジナル性の高い作品を作れるアーティストを目指す。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	TBMディプロマ INFA國際ネイル試験		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法・基準	課題提出等を、総合的に判断し評価する。 出席状況、授業姿勢、尚技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	アクリルスカルプチュア基礎	アクリルスカルプとは・フォームの付け方・エッジ
第3回目 ～ 第4回目	アクリルスカルプ①	クリア（ポイント・スクエア）
第5回目 ～ 第6回目	アクリルスカルプ②	グラデーション
第7回目 ～ 第8回目	アクリルスカルプ③	フレンチ（スクエア）
第9回目 ～ 第10回目	アクリルスカルプ④	フレンチ（ポイント）
第11回目 ～ 第12回目	アクリルスカルプ⑤	バーチャルフレンチ①
第13回目 ～ 第14回目	アクリルスカルプ⑥	バーチャルフレンチ②
第15回目 ～ 第16回目	アクリルスカルプ⑦	ロングスカルプ
第17回目 ～ 第18回目	3Dアート①	エンボス
第19回目 ～ 第20回目	3Dアート②	立体
第21回目 ～ 第22回目	デザインスカルプ①	エンボス埋め込み
第23回目 ～ 第24回目	デザインスカルプ②	マーブル
第25回目 ～ 第26回目	デザインスカルプ③	クラッシュガラス
第27回目 ～ 第28回目	デザインスカルプ④	ウェービング
第29回目 ～ 第30回目	作品作り	特殊ロングスカルプチュア

科目名	T&G Ⅰ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	櫻澤　哲文	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	教育提携しているTONI&GUYのベーシックカットカリキュラムは世界基準の技術であり、美容師として働くうえで必要なカットの基礎を学ぶ事により、即戦力として活躍できるスペシャリストを目指す。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	TONI&GUYベーシックディプロマ		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	TONI&GUYベーシックテキスト		
成績評価の方法・基準	受講態度及び定期試験を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	オリエンテーション 導入講義	TONI&GUYについての概要 各部の名所、スタイル解説
第3回目 ～ 第4回目	シザーワーク	様々なシザーワーク
第5回目 ～ 第6回目	ベーシックスタイル①	スタイル展開図 ワンレングスカット
第7回目 ～ 第8回目	ベーシックスタイル①	ワンレングスカット
第9回目 ～ 第10回目	ベーシックスタイル②	スタイル展開図 グラデーションカット
第11回目 ～ 第12回目	ベーシックスタイル②	グラデーションカット
第13回目 ～ 第14回目	ベーシックスタイル③	スタイル展開図 レイヤーカット
第15回目 ～ 第16回目	ベーシックスタイル③	レイヤーカット
第17回目 ～ 第18回目	サロンスタイル	ショートネープスタイル
第19回目 ～ 第20回目	ベーシック検定対策①	ワンレングスカット
第21回目 ～ 第22回目	ベーシック検定対策②	グラデーションカット
第23回目 ～ 第24回目	ベーシック検定対策③	レイヤーカット
第25回目 ～ 第26回目	サロンスタイル①	サイド刈り上げ
第27回目 ～ 第28回目	サロンスタイル②	セイムレイヤースタイル
第29回目 ～ 第30回目	TONI&GUY筆記検定	筆記検定

科目名	T&G Ⅰ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	倉賀野　正彦	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	教育提携しているTONI&GUYのベーシックカットカリキュラムは世界基準の技術であり、美容師として働くうえで必要なカットの基礎を学ぶ事により、即戦力として活躍できるスペシャリストを目指す。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	TONI&GUYベーシックディプロマ		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	TONI&GUYベーシックテキスト		
成績評価の方法・基準	受講態度及び定期試験を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	オリエンテーション 導入講義	TONI&GUYについての概要 各部の名所、スタイル解説
第3回目 ～ 第4回目	シザーワーク	様々なシザーワーク
第5回目 ～ 第6回目	ベーシックスタイル①	スタイル展開図 ワンレングスカット
第7回目 ～ 第8回目	ベーシックスタイル①	ワンレングスカット
第9回目 ～ 第10回目	ベーシックスタイル②	スタイル展開図 グラデーションカット
第11回目 ～ 第12回目	ベーシックスタイル②	グラデーションカット
第13回目 ～ 第14回目	ベーシックスタイル③	スタイル展開図 レイヤーカット
第15回目 ～ 第16回目	ベーシックスタイル③	レイヤーカット
第17回目 ～ 第18回目	サロンスタイル	ショートネープスタイル
第19回目 ～ 第20回目	ベーシック検定対策①	ワンレングスカット
第21回目 ～ 第22回目	ベーシック検定対策②	グラデーションカット
第23回目 ～ 第24回目	ベーシック検定対策③	レイヤーカット
第25回目 ～ 第26回目	サロンスタイル①	サイド刈り上げ
第27回目 ～ 第28回目	サロンスタイル②	セイムレイヤースタイル
第29回目 ～ 第30回目	TONI&GUY筆記検定	筆記検定

科目名	T&GⅡ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	櫻澤　哲文	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	教育提携しているTONI&GUYのベーシックカットカリキュラムは世界基準の技術であり、美容師として働くうえで必要なカットの基礎を学ぶ事により、即戦力として活躍できるスペシャリストを目指す。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	TONI&GUYベーシックディプロマ		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	TONI&GUYベーシックテキスト		
成績評価の方法・基準	受講態度及び定期試験を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	フーチャーファンデーションスタイル①	スクエアレイヤー①
第3回目 ～ 第4回目	フーチャーファンデーションスタイル①	スクエアレイヤー②
第5回目 ～ 第6回目	フーチャーファンデーションスタイル②	クラシックグラデーション①
第7回目 ～ 第8回目	フーチャーファンデーションスタイル②	クラシックグラデーション②
第9回目 ～ 第10回目	フーチャーファンデーションスタイル③	ベベル①
第11回目 ～ 第12回目	フーチャーファンデーションスタイル③	ベベル②
第13回目 ～ 第14回目	カラー実習①	ブリーチテクニック
第15回目 ～ 第16回目	フーチャーファンデーションスタイル④	ヴァーティカルグラデーション①
第17回目 ～ 第18回目	フーチャーファンデーションスタイル④	ヴァーティカルグラデーション②
第19回目 ～ 第20回目	カラー実習②	ウィービングテクニック
第21回目 ～ 第22回目	ベーシック検定対策①	ワンレングス・グラデーション①
第23回目 ～ 第24回目	ベーシック検定①	ワンレングス・グラデーション②
第25回目 ～ 第26回目	ベーシック検定対策②	レイヤー①
第27回目 ～ 第28回目	ベーシック検定対策③	レイヤー②
第29回目 ～ 第30回目	ベーシック検定②	レイヤー③

科目名	T&GⅡ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	倉賀野　正彦	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	教育提携しているTONI&GUYのベーシックカットカリキュラムは世界基準の技術であり、美容師として働くうえで必要なカットの基礎を学ぶ事により、即戦力として活躍できるスペシャリストを目指す。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	TONI&GUYベーシックディプロマ		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	TONI&GUYベーシックテキスト		
成績評価の方法・基準	受講態度及び定期試験を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	フーチャーファンデーションスタイル①	スクエアレイヤー①
第3回目 ～ 第4回目	フーチャーファンデーションスタイル①	スクエアレイヤー②
第5回目 ～ 第6回目	フーチャーファンデーションスタイル②	クラシックグラデーション①
第7回目 ～ 第8回目	フーチャーファンデーションスタイル②	クラシックグラデーション②
第9回目 ～ 第10回目	フーチャーファンデーションスタイル③	ベベル①
第11回目 ～ 第12回目	フーチャーファンデーションスタイル③	ベベル②
第13回目 ～ 第14回目	カラー実習①	ブリーチテクニック
第15回目 ～ 第16回目	フーチャーファンデーションスタイル④	ヴァーティカルグラデーション①
第17回目 ～ 第18回目	フーチャーファンデーションスタイル④	ヴァーティカルグラデーション②
第19回目 ～ 第20回目	カラー実習②	ウィービングテクニック
第21回目 ～ 第22回目	ベーシック検定対策①	ワンレングス・グラデーション①
第23回目 ～ 第24回目	ベーシック検定①	ワンレングス・グラデーション②
第25回目 ～ 第26回目	ベーシック検定対策②	レイヤー①
第27回目 ～ 第28回目	ベーシック検定対策③	レイヤー②
第29回目 ～ 第30回目	ベーシック検定②	レイヤー③

科目名	きものⅠ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	金子　禮子/福王寺　直美	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	着物に関する歴史、素材、関連する小物やその取扱い、冠婚葬祭のマナーなど、基礎的な知識を学習する。実際に着付けを行うと共に、和装時の身のこなし、お辞儀の仕方、自己紹介の仕方等、美しい立居振る舞いを実習する。		
到達目標（目標検定・資格を含む）	着付け技術修了証		
使用教材・教具（使用するテキスト等）	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	①実習の履修時間		
履修に当たっての留意点	実習が主体となるため、学修への取組状況を重視します。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	着物の理論・体型補整	美容技術理論Ⅱ・着付けの目的　一般常識　体型補正、長襦袢～
第3回目 ～ 第4回目	着付け技術・自装（浴衣）	浴衣について・着付け用小物類・自装技術
第5回目 ～ 第6回目	着付け技術・他装（浴衣）	浴衣の着付け　他装技術
第7回目 ～ 第8回目	着付け技術・自装（着物）	着物の着付け　自装技術
第9回目 ～ 第10回目	着付け技術・他装（着物）	着物の着付け　他装技術
第11回目 ～ 第12回目	着付け技術・（名古屋帯）	着物着付け　名古屋帯の結び方①
第13回目 ～ 第14回目	着付け技術・（名古屋帯）	着物着付け　名古屋帯の結び方②
第15回目 ～ 第16回目	着付け技術・（袋帯）	着物着付け　袋帯の結び方①
第17回目 ～ 第18回目	着付け技術・（袋帯）	着物着付け　袋帯の結び方①
第19回目 ～ 第20回目	着付け技術・（変り結び　浴衣）	浴衣着付け　半幅帯の変り結び
第21回目 ～ 第22回目	着付け技術・（変り結び　着物）	着物着付け　袋帯の変り結び
第23回目 ～ 第24回目	技術確認（着付け・名古屋帯）	着物着付け　名古屋帯　技術確認
第25回目 ～ 第26回目	技術確認（着付け・袋帯）	着物着付け　袋帯　技術確認
第27回目 ～ 第28回目	着付け技術　総合復習	確認試験に向け　実技確認
第29回目 ～ 第30回目	確認試験	着付け技術認定試験

科目名	きものⅡ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	金子　禮子/福王寺　直美	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	きものは、世界に誇る民族衣装であり、その素材から着付け、立ち居振る舞いに至るまで、長い歴史に育まれた世界に誇れる日本の文化です。講義、実習を通じ、きものの持つ内面の奥深さと和のマナーを会得することにより、世界に通用する日本人女性としての品格を備えることを目的とする。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	着付け技術修了証		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	①実習の履修時間		
履修に当たっての留意点	実習が主体となるため、学修への取組状況を重視します。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	礼装きもの着付け(留袖)①	美容技術理論Ⅱ・礼装について　留袖着付け
第3回目 ～ 第4回目	礼装きもの着付け(留袖)②	留袖着付け　太鼓結び
第5回目 ～ 第6回目	礼装きもの着付け(振袖)①	美容技術理論Ⅱ・礼装について　振袖着付け①
第7回目 ～ 第8回目	礼装きもの着付け(振袖)②	振袖着付け　帯結び②
第9回目 ～ 第10回目	礼装きもの着付け(振袖)③	振袖着付け　帯結び③
第11回目 ～ 第12回目	礼装きもの着付け(振袖)④	振袖着付け　帯結び④
第13回目 ～ 第14回目	女性用袴の着付け①	着物の着付け方
第15回目 ～ 第16回目	女性用袴の着付け②	半幅帯の結び方
第17回目 ～ 第18回目	男性用着物着付け①	男性用きもの理論・着付け技術
第19回目 ～ 第20回目	男性用着物着付け②	角帯の結び方
第21回目 ～ 第22回目	花嫁着付け(デモ)	花嫁衣裳の着付け　デモンストレーション
第23回目 ～ 第24回目	着付け技術　総合復習①	確認試験に向け　実技確認
第25回目 ～ 第26回目	着付け技術　総合復習②	確認試験に向け　実技確認
第27回目 ～ 第28回目	技術確認試験(留袖)	留袖技術確認試験
第29回目 ～ 第30回目	技術確認試験(振袖)	振袖技術確認試験

科目名	マツエク	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	秋山　美絵	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	公衆衛生学や伝染病を基礎として眼及びまつげなどの眼付属器官を理解し、 まつげエクステンションの施術に係る技術の理論・施術に係る説明を学習する。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	松風公認インストラクター試験		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	Eyelash Extensions In-Class Training Courses		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、マツエク講義並びに技術の習得は、マツエクウィッグでの施術を行う。 練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	まつげエクステ入門 衛生学	消毒・ワゴンセッティング
第3回目 ～ 第4回目	商材学①（グルー以外）	施術に使用する道具解説 ツィーザーワーク①（かき分け練習）
第5回目 ～ 第6回目	商材学①（グルー以外）	施術に使用する道具解説 ツィーザーワーク②（装着）テープワーク(ウイッグ)
第7回目 ～ 第8回目	生理学・病理学	眼及びまつ毛などの眼付属器官の構造及び機能 装着レッスン（ウイッグ）
第9回目 ～ 第10回目	商材学②（グルー）	グルー機能、成分、原理、特性等解説 装着リムーブ（ウイッグ）
第11回目 ～ 第12回目	装着レッスン	テープワーク（モデル）（実習）
第13回目 ～ 第14回目	病理学	テープワーク等眼疾患、眼周囲皮膚疾患発生機予防法 角膜炎・結膜炎等眼病
第15回目 ～ 第16回目	装着レッスン（デザイン） ウイッグ①	ナチュラル
第17回目 ～ 第18回目	装着レッスン（デザイン） ウイッグ②	キュート
第19回目 ～ 第20回目	装着レッスン（デザイン） ウイッグ③	エレガンス
第21回目 ～ 第22回目	作品作り	カラーエクステを使い作品作り①
第23回目 ～ 第24回目	作品作り・写真撮影	カラーエクステを使い作品作り②・写真撮影
第25回目 ～ 第26回目	検定対策①	検定合格へ向けた問題演習①
第27回目 ～ 第28回目	検定対策②	検定合格へ向けた問題演習②
第29回目 ～ 第30回目	検定対策③	検定合格へ向けた問題演習③

科目名	ヘアデザイン	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	松林　栄子	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	個性的な美を学び、想像力を養い、感性を育成し、総合的な最高の技術を引き出す。 ヘアデザインは舞台、ファッション界、ブライダル、一般分野に至るまで個性あるヘアコーディネーターとして活躍できる人材を育成する。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	アップスタイルの基本ベースから、数種類のアップスタイルを作ること。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	アップスタイルに必要道具一式		
成績評価の方法・基準	出席状況、受講態度、挨拶や技術と想像力、美的感覚も参考にする。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	セッティング ピニング	道具のセッティング方法 ピンの打ち方
第2回目	ヘアゴムの縛り方 編み方	ゴムの縛り方 編み方　各種
第3回目	編み込み①	編み込み　各種①
第4回目	編み込み②	編み込み　各種②
第5回目	編み込み③	編み込み　各種③
第6回目	まとめ髪①	アップスタイル①
第7回目	まとめ髪②	アップスタイル②
第8回目	巻き髪①	コテ・アイロンの使い方
第9回目	巻き髪②	巻き髪　各種
第10回目	巻き髪③	ホットカーラーの使い方
第11回目	すき毛①	すき毛の使い方
第12回目	すき毛②	すき毛を使ったスタイル
第13回目	スタイル①	課題　スタイル作り①
第14回目	スタイル②	課題　スタイル作り②
第15回目	スタイル③	課題　スタイル作り③

科目名	国家試験対策Ⅰ	学科名	国際・総合美容師学科
分類	自由選択	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	髙栁　尚史	実務経験のある教員科目	○:該当 ◯
科目概要	美容師国家試験の課題(ワインディング・ヘアカッティング・オールウェーブセッティング)技術を試験へ向けて解りやすく解説を作り、繰り返し復習をして習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容師実技試験　技術の解説 美容技術理論 1・2		
成績評価の方法・基準	実習の履修時間、日常の受講態度		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ワインディング① オールウェーブ① カッティング①	国家試験実技合格に向けた解説・復習①
第3回目 ～ 第4回目	ワインディング② オールウェーブ② カッティング②	国家試験実技合格に向けた解説・復習②
第5回目 ～ 第6回目	ワインディング③ オールウェーブ③ カッティング③	国家試験実技合格に向けた解説・復習③
第7回目 ～ 第8回目	ワインディング④ オールウェーブ④ カッティング④	国家試験実技合格に向けた解説・復習④
第9回目 ～ 第10回目	ワインディング⑤ オールウェーブ⑤ カッティング⑤	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑤
第11回目 ～ 第12回目	ワインディング⑥ オールウェーブ⑥ カッティング⑥	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑥
第13回目 ～ 第14回目	ワインディング⑦ オールウェーブ⑦ カッティング⑦	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑦
第15回目 ～ 第16回目	ワインディング⑧ オールウェーブ⑧ カッティング⑧	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑧
第17回目 ～ 第18回目	ワインディング⑨ オールウェーブ⑨ カッティング⑨	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑨
第19回目 ～ 第20回目	ワインディング⑩ オールウェーブ⑩ カッティング⑩	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑩
第21回目 ～ 第22回目	筆記対策①	国家試験筆記合格に向けた解説・練習①
第23回目 ～ 第24回目	筆記対策②	国家試験筆記合格に向けた解説・練習②
第25回目 ～ 第26回目	筆記対策③	国家試験筆記合格に向けた解説・練習③
第27回目 ～ 第28回目	筆記対策④	国家試験筆記合格に向けた解説・練習④
第29回目 ～ 第30回目	筆記対策⑤	国家試験筆記合格に向けた解説・練習①

科目名	色彩検定	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎　房代	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	日常の生活の中で色彩は重要な役割を持っている。色彩を感じ、意図した通りの効果のあるカラーコーディネーションを行うためには、色の性質を知り、本質を理解する必要がある。 授業は用語解説、検定対策問題を解きながら同時に、カラーカードを使って実習し、色彩の基礎的な事柄を習得する。色への興味を深くし、色彩のプロを目指す。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	文部科学省後援　色彩検定 1級・2級・3級		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	文部科学省後援　色彩検定テキスト　文部科学省後援　問題集　　色票		
成績評価の方法・基準	授業出席率・受講態度、提出物等を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	色のはたらき①	色票を完成させる
第2回目	色のはたらき②	光の性質と色
第3回目	眼のしくみ	色を見る眼のしくみ　網膜における光の処理
第4回目	照明	照明の種類と特徴　照明と色の見え方
第5回目	混色	加法混色　減法混色　混色を応用した身近な例
第6回目	色の分類と三属性	色の三属性 「純色」「清色」「中間色」 色立体　表色系
第7回目	PCCS　三属性	色相　明度　彩度　三属性による色の表示　等色相面
第8回目	PCCS　トーン	トーンのイメージ　色相とトーンによる色の表示方法
第9回目	色の心理的効果	暖色と寒色　進出色と後退色　膨張色と収縮色　柔らかい色と硬い色 軽い色と重い色　興奮する色と沈静する色
第10回目	色の視覚効果	負の残像　色対比　同化効果　色陰現象　面積効果
第11回目	色の知覚的効果	色の錯視　色相から配色を考える
第12回目	色彩調和	トーンから配色を考える　配色の基本的な技法①
第13回目	色彩と生活	トーンから配色を考える　配色の基本的な技法②
第14回目	ファッションと色彩	ファッション概論　ファッションビジネスの世界 ファッションタイプとカラーコーディネーション
第15回目	インテリアと色彩 インテリアのカラー　コーディネーション	住宅インテリアの色彩　インテリアの配色 インテリアにおける色の心理的効果　インテリアにおける色彩検討

科目名	デッサン	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	マッテオ	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	絵画、造形の基礎であるデッサンを身につける。あらゆるデザインの基本となる表現技法と構成力を演習により習得する。底した課題演習により表現力を高める。 まずは形状、量感、質感、空間を捉えること、ついで細やかな表現力と構図の取り方を身に付ける。創造的表現のフローをつかませたい。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	学園祭の人物画デッサン、イメージを的確に伝えられるデッサンが描ける。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	デッサンブック		
成績評価の方法・基準	各課題提出による採点を中心に、授業出席率・受講態度を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	道具に関する知識	鉛筆　擦筆　毛筆　消しゴム　練りゴム　コンテ ボールペン　スケッチブック①
第2回目	道具・用具の使い方	鉛筆　擦筆　毛筆　消しゴム　練りゴム　コンテ ボールペン　スケッチブック②
第3回目	鉛筆によるデッサン①	鉛筆のグレーのみでのデッサン①
第4回目	鉛筆によるデッサン②	鉛筆のグレーのみでのデッサン②
第5回目	平面と立体のバランス①	陰影の作り方①
第6回目	平面と立体のバランス②	陰影の作り方②
第7回目	形状、量感、質感の表現①	直線・曲線　濃い・淡い　厚い・薄いを平面上で表現する方法①
第8回目	形状、量感、質感の表現②	直線・曲線　濃い・淡い　厚い・薄いを平面上で表現する方法②
第9回目	陰影による描写①	図と地のバランス①
第10回目	陰影による描写②	図と地のバランス②
第11回目	輪郭による線の描写①	太い線・細い線を使い分け、輪郭に陰影をつける①
第12回目	輪郭による線の描写②	太い線・細い線を使い分け、輪郭に陰影をつける②
第13回目	写実表現①	テキストを見ながらデッサンを描く①
第14回目	写実表現②	テキストを見ながらデッサンを描く②
第15回目	写実表現③	テキストを見ながらデッサンを描く③

科目名	ヘアケアマイスター	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	森村　健	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	お客様にきちんとした説明することで、不安を安心に替える為に①現状説明②技術説明③お手入れ説明。 これから美容師として働く学生が知っておきたいヘアケアの知識、毛髪診断が正しくでき、それに対する処理・アドバイスが的確に出来る人材を育成することを目的とする。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	ヘアケアマイスター検定（プライマリー）合格		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	一般社団法人　日本ヘアケアマイスター協会　ヘアケアマイスターブック		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	毛髪科学①	毛髪の構造と働き①②③
第2回目	毛髪科学②	毛髪の構造と働き④⑤⑥⑦ タンパク質とは
第3回目	毛髪科学③	毛髪の4つの結合①② 毛髪のダメージの原因とプロセス
第4回目	毛髪のカウンセリング①	1カウンセリング　2お客様の悩み 3毛髪の現状　4髪質を見極め（特徴・性質）
第5回目	毛髪のカウンセリング②	5くせ毛　6施術時間　7ダメージレベル 8処理の目的　9毛髪状態　10毛髪データ
第6回目	ヘアケア剤①	1界面活性剤について 2シャンプー剤の成分と働き・効果
第7回目	ヘアケア剤②	3トリートメント剤の成分と働き・効果 4スタイリング剤の細分と働き・効果
第8回目	第1章（まとめ）	毛髪科学（復習と確認）
第9回目	第2章（まとめ）	毛髪のカウンセリング（復習と確認）
第10回目	第3章（まとめ）	ヘアケア剤（復習と確認）
第11回目	検定対策①	検定合格へ向けた問題演習①
第12回目	検定対策②	検定合格へ向けた問題演習②
第13回目	検定対策③	検定合格へ向けた問題演習③
第14回目	検定対策④	検定合格へ向けた問題演習④
第15回目	検定対策⑤	検定合格へ向けた問題演習⑤

科目名	ウェディングプランナー	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎　房代	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	ブライダルプロデュースに関わる役割や結婚式を創り上げるための様々なノウハウを学習することにより、ブライダルシーンを創造する能力を身に付ける。授業は、用語解説、検定対策問題を解きながら同時に、ウェディングプランナーの基礎的な事柄を習得する。 ブライダルへの興味を深くし、業界のニーズに応えられるプロを目指す。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	AWP アシスタント・ウェディングプランナー検定		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	ウェディングプランナーテキスト		
成績評価の方法・基準	受講態度及び定期試験、提出物等を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ヒューマン概論	人と人の出会い　日本国憲法　国民の祝日
第2回目	歴史概論	ブライダルの歴史
第3回目	言語概論	言葉のちから　敬意ある会話
第4回目	プレゼンテーション	魅力の伝え方
第5回目	接客概論	ロールプレイング
第6回目	実務概論	婚礼申込時に必要な書類　ホスピタリティ　挙式・披露宴の流れ
第7回目	テーブルプラン	スケジュール作成
第8回目	クリエイティブ概論 広告・企画概論	アドヴァタイジング　ブライダルパッケージ
第9回目	経済概論	マーケットの把握　婚礼ビジネス
第10回目	飲食概論	テーブルコーディネート　ウェデイングケーキ
第11回目	ブライダルパートナー	パートナー企業のネットワーク　フラワービジネス
第12回目	ブライダルにおける花の役割	会場装花　ブーケスタイル　幸せのジンクス
第13回目	婚礼衣装 和装・洋装	ヘアメイク＆エステ　婚約・結婚指輪　熨斗と水引
第14回目	法令概論	飲食に関連する基礎知識　飲酒運転　反社会勢力
第15回目	検定対策	過去問

科目名	PC	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	森村　健	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	最も使用されているMicrosoft社のoffice(アプリケーションソフト)の Word(ワード)、Excel(エクセル)、Power Point(パワーポイント)の基礎を学び、応用としてオリジナルの名刺作成から画像加工であるフォトレタッチのスキル修得を目指す。また、動画編集などの基礎を理解しオリジナルPV作成や出力の知識を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	特になし		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	実教出版株式会社 30時間でマスター Office 2010		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及びUSB提出を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Windows基本動作	PCの基本操作・ファイル操作 USBの使い方・タイピングソフト
第2回目	Word2010①	ワード基礎と入力 ビジネス文書の作成①
第3回目	Word2010②	ワード基礎と入力 ビジネス文書の作成②
第4回目	Word2010③	ワード基礎と入力 ビジネス文書の作成③
第5回目	office① 名刺作成	フォトレタッチ 名刺の作成
第6回目	office② 名刺作成	フォトレタッチ 名刺の作成
第7回目	Excel2010①	エクセル基本操作と入力 表計算と計算式①
第8回目	Excel2010①	エクセル基本操作と入力 表計算と計算式②
第9回目	Excel2010②	エクセル基本操作と入力 表計算と計算式③
第10回目	Power Point2010①	パワーポイントの基本操作① 例題チャレンジ
第11回目	Power Point2010②	パワーポイントの基本操作② 例題チャレンジ
第12回目	Power Point2010③	パワーポイントの基本操作③ 例題チャレンジ
第13回目	動画編集①	PV作成① 動画・画像の素材集め
第14回目	動画編集②	PV作成② 音楽・配置・トランジション
第15回目	動画編集③	PV作成③ 完成・アンケート

科目名	フォトシューティングⅠ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	持田　美奈	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	一眼レフやミラーレスの構造や違い、カメラの基本操作を覚える。 対象の違いを理解して、目的に合わせた撮影技術を身に着ける。 企業に勤め先で生かせるSNS運用への有効活用		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	写真撮影の基礎を身に付ける		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	オリジナルテキスト		
成績評価の方法・基準	出席率及び授業態度を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	一眼レフ基本動作①	撮影の種類（記念写真、ポートレート、物取り商品撮影、趣味、その他）
第2回目	一眼レフ基本動作②	カメラの違い（一眼、ミラーレス、コンパクトの違い） 基本操作/カメラの持ち方、視度調節
第3回目	一眼レフ基本動作③	各種設定・撮影モード（M/Av/Tv/Pとは）
第4回目	一眼レフ基本動作④	シャッタースピード、ISO感度、被写界深度 「カメラ第3重視」
第5回目	一眼レフ基本動作⑤	ホワイトバランス、色温度
第6回目	一眼レフ基本動作⑥	焦点距離と遠近法構図
第7回目	一眼レフ応用操作①	各種設定の応用操作
第8回目	一眼レフ応用操作②	物取りとポートレートの違いを知る
第9回目	物取り	物取りによる各種設定の理解度増加を図る
第10回目	ポートレート①	ポートレート撮影 （白とび、構図、ピントチェック・望遠・広角の使い分け）
第11回目	ライティング①	スタジオ撮影でのライティング
第12回目	ライティング②	自然光でのライティング、室内時カメラのみのライティング
第13回目	写真活用①	（ポートフォリオ用） ポートフォリオとは？
第14回目	写真活用②	（SNS用） HP、Blog、インスタメインに写真構図＆＃タグ重要性
第15回目	全体のまとめ	+a 編集ソフトPhotoshop,lightroomとは？

科目名	フォトシューティングⅡ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	持田　美奈	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	カメラの操作を駆使して、各種撮影技術を身に着ける。 撮影から学ぶことができる色彩感覚を磨くことで美容技術を同時に学ぶ。 応用として、ポートレート写真のライティングパターンを身に着ける。		
到達目標 （目標検定・資格を含む）	美容業務の一環としての撮影技術の修得とSNSでの作品発表。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	一眼レフカメラ・デジタルカメラ		
成績評価の方法・基準	出席率及び授業態度を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	一眼レフ基本動作①	撮影の種類（記念写真、ポートレート、物取り商品撮影、趣味、その他）
第2回目	一眼レフ基本動作②	カメラの違い（一眼、ミラーレス、コンパクトの違い）各種設定
第3回目	一眼レフ基本動作③	シャッタースピード、ISO感度、被写界深度、WB、 色温度焦点距離と遠近法構図、焦点距離と遠近法構図
第4回目	一眼レフ応用操作①	各種設定の応用操作
第5回目	一眼レフ応用操作②	物取りとポートレートの違いを知る
第6回目	物取り	物取りによる各種設定の理解度増加を図る （白とび、構図、ピントチェック）
第7回目	ポートレート①	ポートレート撮影　（白とび、構図、ピントチェック・望遠・広角の使い分け）
第8回目	ライティング①	スタジオ撮影でのライティング（証明写真/型物/話し方）
第9回目	ライティング②	自然光でのライティング、室内時カメラのみのライティング（反射の関係）
第10回目	ライティング③	スタジオ撮影でのライティング（全灯/斜光/逆光）
第11回目	ポートフォリオ①	ポートフォリオとは？ 次回の作品決め
第12回目	ポートフォリオ②	作品撮影（ウイッグ/物）
第13回目	ポートフォリオ③	作品撮影（モデル/人）
第14回目	ポートフォリオ④	作品のまとめ方　（題名のつけ方）
第15回目	全体のまとめ	+a 編集ソフトPhotoshop,lightroomとは？